

## 第3回松山市地域振興構想策定懇話会 議事要旨

### ■日時・場所

日時： 令和6年8月27日(火) 13:30~15:38

場所： 松山市役所別館6階 第1委員会室

### ■出席者

別添「出席者名簿」のとおり

### ■議事内容

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ(事務局)

#### 3. 松山市地域振興構想についての意見交換【資料1】【資料2】【資料3】【資料4】

地区住民アンケート結果及び高校生ワークショップ結果について

- 事務局より地区住民アンケートのクロス集計結果及び高校生ワークショップでの意見の取りまとめを説明したところ、出席者より以下のとおり発言等があった。
- ・「地区に住み続けたいか」という問に対して「どちらでもない」と答えた割合が、久谷地区が他の地区に比べて多かったのは、地域性であると思う。また、高校生ワークショップで、久谷のことを知らないという声が多いので、やはり重要となるのは情報発信である。現在、まちづくり協議会のホームページもリニューアルし、地域の大学生に更新をしてもらうなど、力を入れてやっているところ。
- ・これまで、さまざまな地域振興の取組を進めてきた。継続が重要だと感じている。
- ・住まいや産業など、地域に住める環境があるかどうかが重要。
- ・生活の基盤が整わないと、住んでくれる人はいない。そのためにも経済の自立が一番であると感じている。特に島では、みかんなどの第一次産業がなくては第二次産業、第三次産業にもつながらない。
- ・地域おこし協力隊の方に島に入ってきてもらっているが、3年の任期という制限がある。3年の間に生活基盤をたてることができるのか、心配しているところ。
- ・アンケート結果は、4地区ばらばらに掲載するのではなく、地域ごとの比較があれば、特徴を判別しやすい。また、高校生ワークショップについても、意見をただ羅列して記載するのではなく、コンサルを中心に分析して整理すること。
- ・高校生からどの地域に対してもSNSなどの情報発信のアイデアがあることが興味深い。今のZ世代の若者には、普段自分が見ているテレビ番組やSNSで、自分の地域が出ていたら嬉しいという感覚がある。
- ・SNSで発信するにあたり、地域のことをよく知らなくては発信もできないが、地域で育った子どもも、その地域のことを知らないこともあると思う。教室の勉強以外に地域のことを五感で学べるような機会があれば、より地域への愛着も醸成されるのではないか。
- ・高校生のアイデアを、ワークショップで終わらせるのではなく、自分たちが実行に移し、それに対し何かしら評価をしてあげると、継続的なものになるし、同じように行動を起こす人が増えるかもしれない。

松山市地域振興構想における行動指針(案)について

- 事務局より地域振興構想の全体版に掲げる行動指針(案)について説明したところ、出席者より以下のとおり発言等があり、必要に応じて事務局が回答した。
- ・この3つの柱はよいと思うが、その前提となる「地域住民が考える賑わう地域の姿」をどうまとめていくのかが重要。

- ・地域ごとの目標をつくるうえで、地域の人の意見を取り入れるタイミングはあるのか。
- 資料4を調査票形式にしている。各地域持ち帰っていただき、地域内の意見を聞き、取りまとめをお願いしたい。
- ・打ち上げ花火的なイベントだけではなく、今ある地域資源や魅力を高めて、そこに関わる人達を増やしていこうというイメージをもった。
- ・坂の上の雲ミュージアムが三角形で、順路をたどっていくと、いつのまにか上の方に行っているという面白い作りになっている。資料3で表している三角形の図も、いいサイクルが回ることでだんだん上昇していくというようなビジュアルが表現できるといいのではないかと感じた。

#### 各地域の今後のまちづくりの方向性について

- 事務局より地域振興構想の地域版の作成に向けて、各地域の今後のまちづくりの方向性について説明したところ、出席者より以下のとおり発言等があった。
- ・地域の方向性を考えるうえでは、三津浜地区だけにとらわれるのではなく、高浜・宮前地区など広い視点をもつことも必要。
- ・自分たちのことは自分たちで解決するという意識を持つことが重要。そのためにも、何をしたらいいのかを住民同士で話し合っ、共有して、一步一步前に進むことが一番早い解決の道だと思う。
- ・北条の観光といえば鹿島。以前は夏休み期間中の集客がほとんどだったが、今はキャンプや釣りをする人が特に多く、春から秋まで期間が広がっている。
- ・昔にぎわいのあった北条駅前や渡船場付近に空き店舗や空き家が増えている。接道義務など法律上の問題もあるが、そこに人が住めるような環境づくりと、まちづくりに関わる人を広げていって、地域全体のにぎわいにつなげていきたいと考えている。
- ・「久谷・砥部ゾーン」については、久谷のまちづくりの方向性に限定し、砥部が入ることによって久谷の特徴が分からなくなるなど、基礎情報が分析しづらいため、砥部については無理に表記する必要はないのでは。

#### 4. 報告事項【資料5】

##### 松山市地域振興構想 地域の魅力発信！ワークショップについて

- 事務局より市民を公募して実施した地域の魅力発信！ワークショップの第1回目について、概要やまとめについて説明した。

#### 5. その他・閉会

#### ■会議風景

